

Q 23 学校の中の常識は世間一般の常識からはかけ離れているなどよく言われます。先生方も目を外に向け、学校外で様々な経験を積むために、どのような取組が行われているのでしょうか？

A 先生が学校外の施設などで、様々な経験を積むことができるよう、先生の社会体験研修を行っています。

教員も社会の一員であることに変わりはありません。学校社会の中で、狭い専門性に閉じこもることなく、幅広い視野を持つことが必要です。

このような観点から、長期間（1か月から1年程度）や短期間（1日から1週間程度）の教員の社会体験研修を推進しています。

例えば、特別養護老人ホームでの介護や図書館でのレファレンス、デパートやホテルなどでの接客、会社での営業活動、工場での製品組立て、環境保護などのボランティア活動に従事したりと様々な社会体験研修が行われています。

【教員の長期社会体験研修の実施状況】

	2年度	4年度	6年度	8年度	10年度
都道府県 指定都市数	1	2	3	15	36
派遣人数	1	28	31	319	720
うち 民間企業	1	28	29	242	474

もっとも、このような社会体験研修という次元を超えて、例えば夏休みや土曜日、日曜日などに自発的に地域のボランティア活動に参加したり、様々な社会の人々と交流することなどを通じて、身近な活動の中から自らの視野を広めていくことが大切です。

教員の方々の自発的な取組を望みます。



教員の長期社会体験研修（民間企業）



教員の長期社会体験研修（民間企業）



教員の長期社会体験研修（社会福祉施設）

社会体験研修に参加した先生の声から

学校外の様々な社会の人々と触れることを通じて対人関係能力が向上した

民間企業の厳しさなどを肌で感じ、学校経営参画への意欲、学校改革への意欲が向上した

視野そのものが広くなり、多様なものの見方、考え方ができるようになった